会長挨拶

古賀　誠
全国道路利用者会議　会長

本日は、第66回全国道路利用者会議全国大会を25年ぶりに、リーグ優勝で今、日本列島で一番元気のある、広島で執り行うことができました。本日は公務ご多端の中に湯崎広島県知事、松井広島市長、宇田広島県議会議長をはじめ、たくさんのご来賓の皆さんにお祝いに駆けつけていただいております。ご来賓の皆様には心からお礼を申し上げますと同時に、特に当会議がお世話になります、国交省からは、増田大臣官房審議官が代表してお見えいただいております。あらためてお礼を申し上げる次第でございます。

さて本日、この会場に北は北海道、南は沖縄、全国からたくさんの皆さんにご参集をいただくことができましたことに感激とまた感謝の気持ちでいっぱいでございます。皆さんにおかれましては長い間、道路整備の促進はもとより、全国道路利用者会議の各般の需要に対します暖かいご理解とそしてご支援を賜っておりますことにこの席をお借りしてあらためて、会長としてお礼を申し上げたいと存じます。

ご案内の通り近年、異常気象の影響もございまして、大規模な自然災害が発生をいたしております。今年も4月の熊本県の大地震、たびたびの台風の来襲によりまして北海道・岩手県等々大きな災害が生じております。被災地の皆さんにはあらためてお見舞いを申し上げますと同時に一日も早い、復旧・復興をお祈りを申し上げる次第でございます。

全国道路利用者会議は昭和24年に設立をし、今日まで大きな歴史と伝統を築きながら先人・先達が築いた魂を私どもは引き継ぎ、懸命の努力を重ねさせていただいているところでございます。ご案内の通り、道路特定財源が平成21年に暫定税率を残されたままに廃止をされました。また、公共事業に対する「コンクリートから人へ」等々の大変な批判の中で厳しい環境の中にあるのは、ご承知の通りでございます。

しかしながら、我が国の高規格幹線道路から生活道路にいたるまで、道路の必要性は我が国の力であり、道路は命の道である。そういう認識のもとに今後も懸命の努力を私どもは重ねていかなければならないと決意をあらたにいたしているところでございます。同時にただいま申し上げました自然災害、時と場所を選びません。防災・減災そうした強い国土作りにも新たな視点をあてていかねばならないと思っております。

残念ながら近年、公共事業を取り巻く予算の現状は誠に厳しいものがございます。本年の当初予算も96兆という大規模な国家予算にも係わらず、その4割以上が社会保障費であります。公共事業費は5兆9千7百億余、誠に寂しい限りであります。そうした現状の中で私達はどの様にこの必要な財源確保を持続・安定的に得る事が出来るか大きな課題だと思います。英知とそしてまた勇気と様々な皆様方の知恵を借りながらこの予算の持続・安定の道をこれからも見出していくため、努力をしていかねばならないと思います。今後とも皆様方のご指導とご支援を心からお願いを申し上げる次第です。

全国道路利用者会議は新しい道路を求める皆さん方、道路を利用される方々、多くのそれ野の広い団体でありますだけに、我が国の経済再生にも十分の責任と命題を持っていることを自覚しながら皆様方と共に精一杯、微力でございますが、先頭に立って働かせていただきたいと決意を新たにいたしているところでございます。

今後もご支援とご協力をお願いを申し上げ、終わりになりますが今大会にあたり実行委員長をお引き受けいただきました広島県・広島市道路利用者会議の檜山会長をはじめ、4県の皆様方、広島県広島市、多くの関係者に大変な心温まるご努力を賜りましたことに衷心よりお礼と感謝を申し上げご挨拶といたします。

来賓挨拶

増田博行
国土交通大臣代理
国土交通省大臣官房審議官

全国道路利用者会議第66回全国大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本日お集まりの皆様方にはおかれましては、平素より国土交通行政の推進にあたり格段のご支援とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

我が国は人口減少時代を迎えていますが、それを上回る生産性の向上があれば、経済成長を続けていくことは十分可能です。

こうした考え方の下、国土交通省では、本年を「生産性革命元年」と位置付け、省を挙げて取り組んでいます。

中でも、国民生活や経済活動に不可欠な基盤でありながら、ドライバー不足が課題となっている人流や物流について、先の通常国会で成立した「改正物流効率化法」の枠組み等を活用した「物流生産性革命」の取組に併せて、大都市圏環状道路等の整備、主要な港湾・空港等へのアクセス道路の改善等によるネットワークの強化や今ある道路を賢く使う取組など、利用者目線の道路施策を推進し、生産性向上に取り組んで参ります。

一方で、東日本大震災からの復興の加速化や、熊本地震の被災地の一日も早い復旧・復興のための道路整備を推進するなど、被災地の復旧・復興に全力で取り組むとともに、大災害は必ず発生するとの認識の下、ハード・ソフト対策を総動員した防災・減災対策、道路の老朽化対策を進めて参ります。

これらの施策を進めていくためには、公共事業予算は、長期的視点に立って、安定的・持続的に確保されるべきです。国土交通省といたしましても、今日ここにお集まりの道路利用者の皆様の幅広いご意見を伺いながら、必要な道路施策を着実に推進し、活力ある国づくりに取り組んで参ります。

結びに、皆様方のご健勝と一層のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶

湯崎英彦
広島県知事

本日は古賀会長をはじめ日頃から道路整備の促進にご尽力をされていらっしゃいます皆様方を広島にお迎えして、全国道路利用者会議第66回全国大会が盛大に開催されますこと、心からお慶びを申し上げますとともに、全国からお集まりの皆様方に心から歓迎を申し上げます。

また、本年4月に発生をいたしました熊本地方を震源とする地震や8月末に北海道・東北地方を襲った台風による被害に遭われた方に心からお見舞いを申し上げます。

さて本県におきましては昨年3月に山陰と山陽を結ぶ中国横断自動車道　尾道松江線が全通をいたしました。これにより中国自動車道や山陽自動車道などに井桁状の高速道路ネットワークが完成し、県境を越えた物流やあるいは交流人口の拡大といった活性化に大きく貢献をしているところです。

また、東日本大震災や九州地方における地震等の大きな災害時には道路ネットワークの機能が最大限発揮され、救助・救命活動や支援物資等の緊急輸送に大きな役割を果たしており、一昨年に広島市で発生をしました土砂災害におきましても、緊急輸送道路を確保することの重要性を改めて認識をしたところです。

しかしながら地方におきましては、道路のミッシングリンクや渋滞等により、道路の果たすべき機能が十分発揮されていない箇所も数多くあり、日頃から道路を利用する方々にとって非常に大きな問題となっております。また、近年の異常気象に伴う大雨や地震等の災害による被害を最小限に食い止め、迅速な復旧を図るためにも道路ネットワークの整備や経年劣化した橋梁等の維持管理が急務となっております。

こうした道路に関するニーズの高まりを踏まえ、本県におきましても広域的な交流・連携基盤の強化、災害に強い道路ネットワークの構築等に向けて道路整備を進めていますが、取組に必要な予算は十分に確保されているとは言い難い状況にあると考えております。道路整備に必要な予算の確保に向けて本日お集まりいただいております皆様と連携をしながら引き続き努力してまいります。

大会終了後の道路視察には、本県をはじめ中国地方各県のコースに多くの皆様がご参加いただくと伺っております。広島県につきましては尾道、呉、また宮島をご視察いただくと伺っております。風光明媚な瀬戸内海の風景、あるいは新鮮な海の幸など広島の多彩な魅力の一端に是非ふれていただければ幸いです。

開会のことば・議長

檜山俊宏
広島県議会議員
全国大会実行委員会　委員長

本日は古賀会長をはじめ、全国各地から多数の会員の皆様のご参加のもと、国土交通省から増田大臣官房審議官、また地元広島県の湯崎知事、松井広島市長、宇田県議会議長ほか多数のご来賓のご臨席を賜り盛会に開催出来ますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、最も基礎的な社会基盤である道路は、国民生活の向上、経済の発展のみならず、防災・減災対策に不可欠のものであり、道路利用者会議ではこれまで、高速道路から生活道路までのネットワークの整備促進、老朽化対策、渋滞対策及び安全対策等について訴え続けてまいりました。その結果、相当な効果を上げてきておりますけれども、近年、国の財政運営の厳しさから、道路関係予算を取り巻く環境は、誠に厳しさを増してきております。

こうした中、あらためて我々は活力にあふれ、安心出来る社会を次の世代に引き継ぐため、一人一人が道路の現状を認識し、必要な道路整備を進める固い決意のもとで、将来に対する責任に真剣に向き合わなければならないと考えております。このため私どもといたしましては、古賀会長のもと、一層団結し、真に必要な道路整備の推進に全力で取り組んでまいる所存でございます。

本日、お集まりの皆様方におかれましても今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

終わりに今大会が皆様のご協力のもと、大きな成果があげられますことを祈念いたしまして、開会の言葉といたします。

来賓挨拶

松井一實
広島市長

今日、この全国道路利用者会議第66回全国大会が古賀会長をはじめとする来賓の皆様、関係者、各位お迎えしてこの様に盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに全国各地よりお越しいただきました皆様を119万市民を代表いたしまして歓迎申し上げたいと思います。

今年は4月の熊本地震をはじめ8月の東北・北海道の台風上陸等々により地域に甚大な被害を発生しております。被災された皆様にお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

本市におきましても一昨年の8月に土砂災害によって甚大な被害を受けておりますが、復旧にあたりまして国土交通省をはじめ多くの自治体の方々にご支援・ご協力をいただきました。

そのことを心より感謝申し上げます。皆様のおかげをもちまして現在、復興に向けて着実に事業は進んでおります。

さて、そんな中でありますけれども本市では誰もが住み続けたい、あるいは住んでみたいと思う都市圏を目指しておりまして、そのために圏域の23の市町が一緒になって圏域経済の活性化と、それからその地域における人口200万人は維持しよう、出来ればそれを超えようといったことを目指して200万人の広島都市圏構想の実現に取り組んでいるところであります。これを実現するためには、市町を結びつける道、即ち人・物・金・情報これらがうまく循環していくための施設、これの充実強化が欠かせません。即ち広域幹線道路ネットワーク、この強化が不可欠であると考えております。こうした中、国におかれましては県圏域内の広域幹線道路の整備に取り組んでいただいておりまして、広島の南道路、可部バイパス等が順調に開通しておりまして、人の動き、あるいは物の動き、大きく変わってきております。

そして今後もこうした広域幹線道路の整備によりまして、県域内の連携が強化されて地域経済がますます活性化していくものと信じております。今後さらなる地域経済の活性化、そして教育・医療・福祉等々の生活環境、これを一層充実していくためにミッシングリンクの解消はもとより地域の安全・安心、老朽化する道路のストック、これらの長寿命化、さらには地域経済の振興、ネットワークの機能向上、こういったものに資するスマートインターチェンジの整備等々、様々なインフラ整備に関する施策を推進していくことが重要になってきているという認識でおります。

そうした意味において道路利用者の方々が、持っておられる意見をしっかりと集約して、長期的かつ安定的な道路整備の一層の推進に向けて全国の皆様が一堂に会して議論するこの大会、非常に意義があるものと考えております。皆様にはそれぞれのお立場でこの大会の成果を生かして引き続き道路整備の促進にご尽力いただきますようにお願い申し上げます。